

浦河町「長寿桜」の樹勢回復・その2

1 はじめに

長寿桜は、浦河町西舎の「優駿さくらロード」の奥にあるJRA日高育成牧場の敷地内にある大山桜です。JRA日高育成牧場の事務所は、旧農林水産省の日高種畜牧場の敷地にあり、この日高種畜牧場は、戦後間もない1947年（昭和22年）に開設された「農林省日高種畜牧場」が嚆矢で、その前身は、1907年（明治40年）の「日高種馬牧場」まで遡ります。

長寿桜は、この牧場の開設直後の明治末期に植栽されたものとなれば、百年を越す桜ということになります。

この桜の傍らにある「うらかわの名木 第3号」の標識によると、幹周は305cm、樹高8.5mで、「毎年この桜を訪れ、幹を抱きパワーをもらって長生きした」というエピソードから、「長寿桜」と呼ばれるようになった、とのこと。



長寿桜

2020.05.06



長寿桜

2020.05.06

2 長寿桜の樹勢回復措置

長寿桜は、金田正弘樹木医等と当社で、2020年（令和2年）11月18日に、主に割竹縦穴式土壌改良法及び縦穴式土壌改良を内容とする樹勢回復措置を行っています。

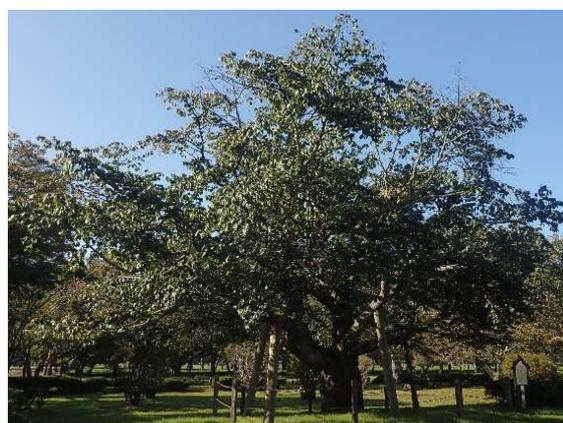
2022年（令和4年）9月9日に当社樹木医の木戸口和裕がこの桜を視察したところ、9月上旬であるにもかかわらず既に紅葉、落葉が始まっていました。

一方、近くにある大山桜の「百年桜」も2020年に長寿桜と同様の樹勢回復措置を行っていますが、葉は緑が濃い状態です。「百年桜」に比べて長寿桜は、明らかに樹勢が衰弱していると思われました。



長寿桜

2022.09.09



百年桜

2022.09.09

このような状況を踏まえ、2022年（令和4年）11月18日、再び樹勢回復措置を行ったものです。参加者は、金田樹木医、御子息の金田紘幸氏、木戸口和裕の3名で行いました。

資材は、全て金田樹木医が準備したものです。「混合土」は既に作成済みで、20L程度の肥料袋に詰めていたので、攪拌混合する手間が省けて、作業を効率的に行うことができました。

「混合土」の内容は、①燐炭、②ピートモス、③堆肥、④樽前火山灰、⑤鹿沼土、⑥赤玉土、⑦パーライト、となっています。このほかに、日高産堆肥だけがに入った袋も用意されていました。割竹の竹は北海道松前町産の孟宗竹です。

長寿桜を囲っている保護柵は長寿桜の根の分布域に比べていかにも狭く感じられます。2020年、保護柵から2m程度に割竹縦穴式土壌改良法を行いましたが、今回は、主にそれからさらに3m程度外側に、割竹縦穴式土壌改良法を行っています。樹勢回復措置の具体的な内容は、次のとおりです。

- ①保護柵外に環状に17か所の割竹縦穴式土壌改良法、17か所の縦穴式土壌改良法、保護柵内にも環状に10か所の縦穴式土壌改良法用の縦穴をアースオーガで深さ0.6mから0.8m程度掘削しました
- ②穴あけ器による深さ20cm程度のエアレーションを根の範囲に格子状に多数行いました
- ③穴あけ器でできた穴には固形肥料（まるやま3号）1個投入し、その上に混合土を投入しました
- ④アースオーガや穴あけ器の穴に混合土を投入し、表層にフジミンForest（ペレット状）、普通化成肥料を散布しました
- ⑤高枝切り鋸による枯損枝切りを行いました



縦穴掘削

2022.11.18



割竹の建て込み

2022.11.18



土壌改良の状況

2022.11.18



樹勢回復措置完了

2022.11.18

3 終わりに

長寿桜の二本の主たる幹のうち、特に北側にある主幹に属する一部の枝の上部にはコフキサルノコシカケと思われる子実体があり、木材腐朽菌による内部腐朽が進んでいることを示しています。これに対して、二本の主たる幹から、幹化した気根へと、徐々に再生への準備を始めているように見えました。



コフキサルノコシカケと思われる子実体 2022.11.18

今回の土壌改良によって、根への酸素や養分、水分の供給を促進するだけでなく、ミミズや土壌微生物の活動の場を広げて、土づくりをしていくものです。

今回の措置の効果が表れるのは、2024年（令和6年）の開花期となります。この桜がその名のとおり、長生きし、パワースポットとして続いていくことを願っています。